『エミールの家』

―― La maison d'Émile ――

"Le premier asile de l' homme est le sein de sa mère ; le second est sa maison." ―― Jean-Jacques Rousseau, Émile, ou De l' éducation, 1762

01. ルソーの教育論『エミール』

フランスの啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーは 1762 年に教育論の名著『エミール』を出版する。『エミール』は、架空の少年エミールが誕生してから結婚するまでの 25 年を「私（ルソー）」が家庭教師の立場から見守り、助言することで文明社会によってゆがめられない理想の人物像 "自然人" を目指して指導するというものだ。ここでの "自然" は人の内にある本能を指しており、"自然人" は「自分のために生きているものであり、自己愛のあるもの」と語られている。またその対になるものを作中では "社会人" としている。

Fig.1 ジャン＝ジャック・ルソー (1712-1778)
Fig.2 著書『エミール』, 1762

02. 無個性な私と住宅

無個性。今日、自分のことをそう評価している人は少なくない。あらゆるものが画一化され、自分の意見なしに決められたレールを走る日々が続く。住宅においても同じことがいえるのではないだろうか。一般化、効率化、合理化された住宅は構造・機能ともに画一化されている。この画一的な空間は、我々に受動的な姿勢を植え付け、自己愛を喪失させる。私自身も実に受動的な人間であると感じるときがある。これといった趣味を持たず、人に言われてからしか動けない。自分色が見えない私は自分が何者であるかわからなくなる。

都市　住宅地

03. 仮説――住まいが刻む個性

我々にとって最も身近で親交が深い空間は住宅である。人は一生を住宅で暮らす。つまり人の内面的要素は住宅空間によってつくられると言っても過言ではない。だが近年の住宅は画一化された不動産、"社会住宅" になっている側面がある。このことが人の無個性化を促進させる原因ではないだろうか。

もし住宅がルソーが語る理想の人物像である "自然人" に沿って形作られた "自然住宅" であれば、そこに住まう人も空間の多様性に誘発され "自然人" に近づくとして新たな住宅の在り方を考える。

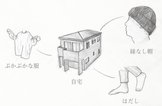
関係　恐怖　安堵

空間は人の内面にある心情や性格などを作り出し操作する。
その関係は一方的であり非論理的でありながらも素直である。

04. ケーススタディ：自邸

今回は "社会住宅" の代表として私の実家をケーススタディとし、『エミール』を施す。私自身 "社会人" 寄りの人間であり、23 年間暮らす実家はまさに "社会住宅" であると私は考える。そこで、ルソーの教育『エミール』を私の実家に施すことによって理想の住宅像 "自然住宅" を目指す。
自然住宅の中で暮らすうちに、今までの人生になかったふるまいが芽生え、私は少しずつ "自然人" へと歩み出す。自然住宅の中で過ごす時間が、私の中に眠っていた自己愛をそっと呼び覚ます。

実家（外観）　実家（内観）



05. 手法：『エミール』を読み解く

登り棒 poteau d'escalade
「万物をつくる者の手をはなれるときすべてはよいものであるが、人間の手に移ると悪くなる。
Tout est bon lorsqu'il quitte les mains du Créateur de toutes choses, mais devient mauvais lorsqu'il passe entre les mains de l'homme.

自然のつくったままのほうがうまくいくことがある。人間そのものさえそうだ。」
Parfois, les choses fonctionnent mieux de la manière dont la nature les a créées. C'est même le cas pour les êtres humains eux-mêmes.

屋根 toit
「帽子をかぶらせることにしたいというなら、薄地の、透き間のある縁なし帽、
S'ils veulent vous faire porter un chapeau, ce doit être un chapeau fin, perméable et sans rebord,

ちょうどバスク人が髪の毛をつつんでいる網のようなものにするがいい。」
Il devrait ressembler au filet que les Basques utilisent pour s'envelopper les cheveux.

階段 escaliers
「自分の内にある感情の変化はなめらかであるほうがいい。感情の変化は感情の豊かさに作用する。」
Les changements émotionnels à l'intérieur de soi doivent se faire en douceur. Le changement émotionnel est intimement lié à la richesse émo

壁 mur
「体の手足はすべて衣服のなかでゆっくりしていなければならない。
Tous les membres du corps doivent être habillés lentement.

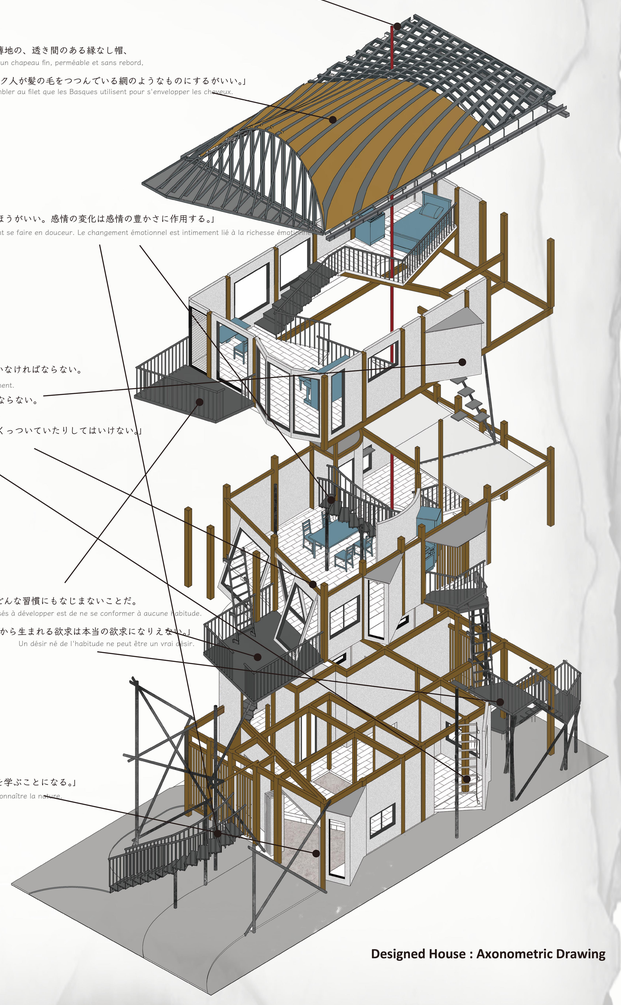
その運動や成長をさまたげるものがあってはならない。
Rien ne doit entraver son mouvement et sa croissance.

なんでもあまりにぴったりしていたり、体にくっついていたりしてはいけない。」
Tout ne doit pas être trop serré ou attaché au corps.

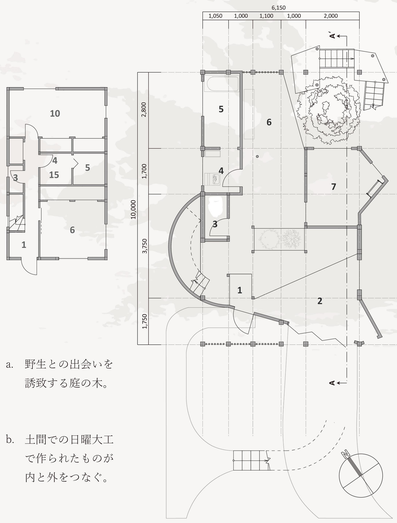
床 plancher
「子どもにつけさせていいただ一つの習慣は、どんな習慣にもなじまないことだ。
La seule habitude que les enfants devraient être autorisés à développer est de ne se conformer à aucune habitude.

習慣から生まれる欲求は本当の欲求になりえない。」
Un désir né de l'habitude ne peut être un vrai désir.

土間 sol en terre battue
「はだしで地面を踏みしめる、これこそが自然を学ぶことになる。」
Fouler le sol pieds nus, c'est ainsi que l'on apprend à connaître la nature.

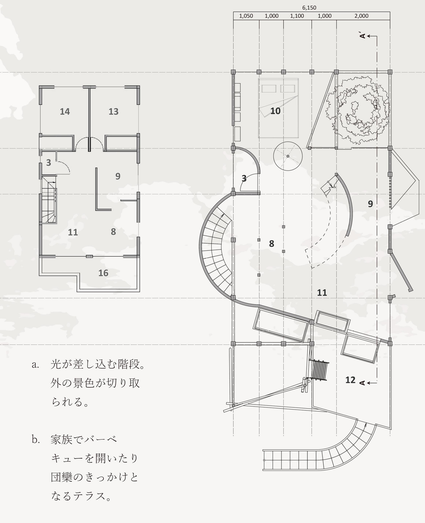


Designed House : Axonometric Drawing



a. 野生との出会いを誘致する庭の木。

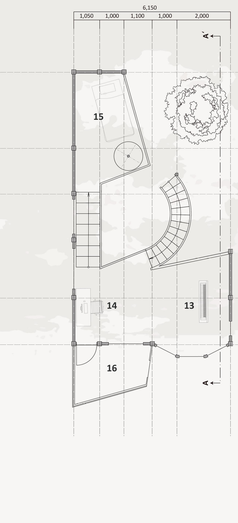
b. 土間での日曜大工で作られたものが内と外をつなぐ。



a. 光が差し込む階段。外の景色が切り取られる。

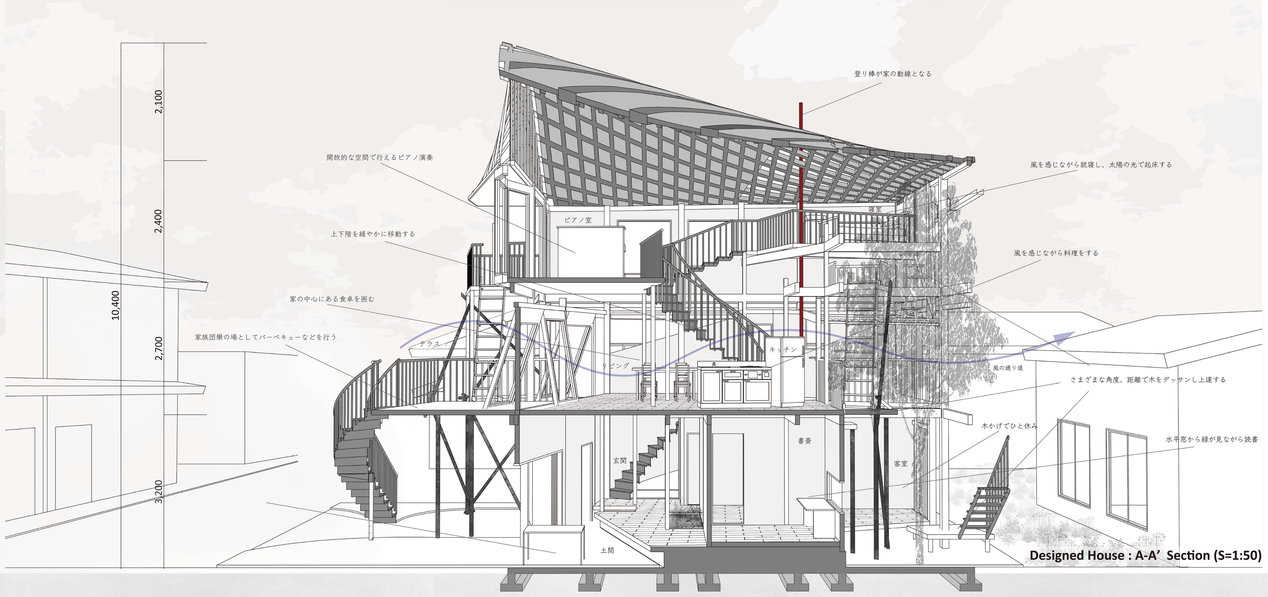
b. 家族でバーベキューを開いたり団欒のきっかけとなるテラス。

Designed House : 1F Plan (S=1:50)



1. entrance
2. earth floor
3. rest room
4. changing room
5. bath room
6. guest room
7. book room
8. dining room
9. kitchen
10. bed room
11. living room
12. terrace
13. playing room
14. study room
15. laundry room
16. balcony

Designed House : 3F Plan (S=1:50)



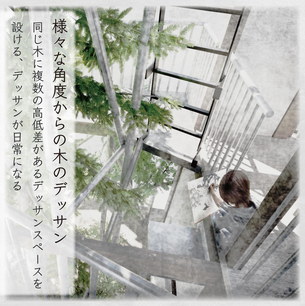
Designed House : A-A' Section (S=1:50)

朝の陽射しでの目覚め
起床のタイミングは太陽と同じ
自然と早起きする習慣が身に付く

テラスと家族でバーベキュー
キッチンから続くテラスは家族団欒の場
家族の思い出が作られる

家の外にまで広がる日曜大工
キッチンから行きやすいテラスは家族の団欒の場に、家族の思い出が増える

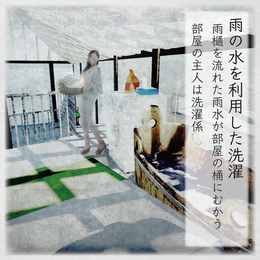
家中に音色が響き渡る ピアノ演奏
屋根の形状によってピアノで奏でられた音は家中に広がる
ピアノが家の生活音になる



様々な角度からの木のデッサン
同じ木に複数の高低差があるデッサンスペースを設ける、デッサンが日常になる

野生の発生
木の周りに集まる小鳥が巣をつくり
生物の成長を感じられるように

家のすべてに通ずる棒登り
屋根上までのびる登り棒
家の動線であり運動のきっかけを与える



雨の水を利用した洗濯
雨樋を流れた雨水が部屋の桶におかう
部屋の主人は洗濯係

緑と光に囲まれた読書
窓から入る自然に包まれた静かな空間
一人の時間を優雅に過ごす

自然にあふれた屋内の畑仕事
屋根や壁の透き間から自然を取り入る
作物の成長とありがたみを肌で感じる

光指す道となるキャットタワー
仕切りのない屋内は猫の遊び場
猫とのふれあいが日々の生活の癒しに